

第 2 回：一期一会

教場長 田中仙融

最近「カメラ女子」という言葉を耳にされたことはありませんか？

プロ並みのカメラをもって、“写真が大好きな女の子”のことです。カメラの性能も良くなり、以前は男性のものというイメージのあったカメラもすっかり女性のものになっています。

茶会の時に前会長¹の供をして席を回ると、何席入っても、それぞれの道具組を総てしっかりと覚えていらして驚かされたものです。前会長に「どの席の道具のことももっとよく覚えていられたらいろいろ教えて頂けたのに、残念だわ。写真にでも納めたいわ」と言ったことがあります。そのときに「心の目を見て、鑑賞しなさい。席主の思いが伝わると心に残り、その席のことを思い描くと自然と設えられた道具も思い出すことができるよ」と教わりました。

何年か経ったとき、ある席に入っておもてなしを受けたとき、席主の思いがすーっと心に響き、道具への思いが伝わり、二度と拝見できないものと思って心静かに拝見したのです。家に戻り、どんなお席だったかと前会長に尋ねられると、自分でも信じられないくらいすらすらと会記の端から道具組が言葉になっているのです。そんな自分に驚くと共に、“心の目で見ると”という会長の言葉が理解できたように思えました。

カメラで撮った物は、写真を見ないとなかなか思い出せません。心のカメラに納めた場面は、そのときの状況を想像することで、鮮明に思い出されるのです。これこそが「一期一会」。それ以来、茶会以外でも稽古でも、旅行でもどこに出かけて人に会ったり物を拝見するときには、いつも心の目に焼き付けることにしています。皆さんもカメラを茶席に持ち込まず、物との出会いを大切にしてみませんか。

平成 24 年 08 月 発行 会報「えんじゅ 72 号」掲載

¹ 仙翁前会長のこと